



茨城ワイズメンズクラブ
2020年度-2021年度
4月報 Vo 1.152

強調月間テーマ

LT

THE Y'S MEN'S CLUB OF IBARAKI

CHARTERED 2006



国際会長主題.....「命の川を信じよう」
アジア太平洋地域会長主題.....「変化をもたらそう」
東日本区理事主題.....「変化をたのしもう！」
関東東部部長方針.....「学びと親睦を糧に外へ向かおう！」
茨城ワイズ会長主題.....「楽しくやれる方法を考えよう」

<3月例会プログラム>

と き:2021年4月9日(金)
19:00~21:00

と ころ:オンライン開催(zoom)
司 会:熊谷 光彦

開会挨拶と点鐘:熊谷 光彦

ワイズソング:

ワイズ信条:

- 1、自分を愛するように
隣人(りんじん)を愛そう
- 1、青少年のために YMCA に尽くそう
- 1、世界的視野をもって
国際親善をはかろう
- 1、義務を果たしてこそ
権利が生ずることをさとろう
- 1、会合には出席第一
社会には奉仕第一を旨としよう

今月の聖句・祈禱:

フリートーク:

「私、今これにハマっています」等
ハッピーバースデー&

おめでとう結婚記念日:

スマイル:

茨城YMCA報告:大澤 篤人

閉会挨拶と点鐘:熊谷 光彦

★巻頭言★「3.11を覚えて」

金子 かずお

2011年3月11日の東日本大震災と、東京電力福島第一原発の事故から10年を迎えた3月11日、各地で追悼行事が行われました。現在被災地では、ある程度のインフラ整備は進んだものの多くの自治体は人口減少にあえいでいます。そこには犠牲者を悼んで祈る人々の姿がありました。

震災関連死を含む死者・行方不明者の数は2万2千人以上に上り、今なお4万人以上が全国各地で避難生活を強いられている現状の中で、国や東京電力は被災地への賠償や支援の打ち切りに向けた取り組みを進めています。ふるさとを奪われ、厳しい避難生活を送っている多くの人々がいまだにおられます。

福島・宮城・岩手・東京では追悼行事が行われました。茨城県内においては24人が死亡し、1人が行方不明となり、関連死者は42人に上っています。停電や断水などで不自由な生活を経験した方も多いと思います。各地では震災を風化させることなく教訓を次代に伝えることの大切さを誓っています。

私たちの組織は全国に広がりを持っています。親を亡くした子どもたち1,778人を支えて支援をしようとしています。

☆今月の聖句☆

だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦勞は、その日だけで十分である。

マタイによる福音書 6章 34節

【茨城クラブ3月例会報告】

3月例会は5日、zoomを利用してのリモートにて開催いたしました。いつものメンバーの他に、今回は茨城YMCA現役リーダー3名とOG1名、宮田総主事ならびに和田主事にも参加していただき、賑やかな



会となりました。

今回のメインは、参加リーダーによる北関東リーダー研修会報告。この研修会は、活動歴1~2年のリーダーを対象としてYMCA理解を深める目的で2月に開催されました。茨城YMCAからは4名のリーダーが、そしてサポーターとしてOG1名が参加いたしました。別の場所からリモート参加していただいたリーダー3名に、開会式の様子(宇都宮の大久保ワイズ)、YMCA理解について、基調講演、グループトークと



グループ発表、フリートーク等を、それぞれパートを分けて添付の写真のようなスライドにより、すばらしく連携の取れたプレゼンテーションをしていただきました。研修会に参加した感想として「まだまだYMCAについて知らないことがあるのでこれからも



勉強していきたい」、「この研修を生かして野外活動などに取り組んでいきたい」といった謙虚なコメントがなされましたが、なかなかどうして立派な完成度の高いプレゼンを拝見し、みなさんがよく勉強されておられることがとてもよく分かりました。YMCAの精神が、時代が変わっても脈々と引き継がれ息づいていることを再確認でき、とても嬉しく思いました。

発表のあとはワイズメンバーのみで残り、茨城YMCA報告がされ、協議を行いました。茨城YMCA



が競売にて、つくば市南西部の土地2,000坪、建物7棟450坪の物件を年明けに落札したこと、この広大な不動産を活用してさらなるプログラムの充実を図っていききたいとの報告がなされました。ついてはワイズとしてもなんらかのお手伝いできればという話ができました。また、茨城県南牛久地区での茨城YMCAの拠点開設ならびに活動が既に5年過し、現地にて活動に参画してくれる方々も徐々に増えている現状から、牛久地区のみなさんの力をワイズにも分けていただくべく、これまで夢のような話だった牛久ワイズメンズクラブ設立に向けた準備を本格的に進めていきたいという目標設定について意見を交換いたしました。前向きな議論も多数出されましたが、一方で茨城クラブ自体が思うように会員数を伸ばせない中で新しいクラブを支えることが果たして可能なのだろうかという慎重な意見も出ました。今のところ最終的にどのような形になるかはわかりませんが、茨城YMCAを応援したいという気持ちを持つ方々の受け皿のひとつとして、ワイズメンズクラブの果たす役目は大きなものになってゆくだらうと考えております。今後も茨城YMCAと茨城クラブが協議を重ね、その都度報告させていただきたいと考えております。

(書記 村田)

3月例会（リモート開催）出席状況

会員：8名（稲本、大澤、片山、金子、熊谷、宮田、村田、柳瀬）、メネット：0名、スタッフ：1名（和田）、リーダー：3名、ゲスト：1名、出席総数：13名、在籍者会員数：9名、会員出席率：89%

【事務報告】

会計報告（3月5日～4月8日）

前月繰越金	13,097
次月へ繰越	13,097

ワイズメンのみなさまにおかれましては引き続き会費の前納について、ご協力を賜りたく願います。
(会計 柳瀬)

【茨城 YMCA 報告】

3月の報告

- 1日 早天祈祷会
- 1日 北関東野外担当者会
- 2日 ウェルネス事業部担当者会
- 2日 幼保園卒園遠足
- 5日 リソースモビリゼーションチームミーティング
- 6日 冬のデイキャンプ
- 6日 Amazon Future Engineer
- 7日 高学年デイキャンプクラブ「トムソーヤ」
- 9日 幼保園遠足
- 10日 中期計画委員会
- 13日 未就学児デイキャンプクラブ「わんぱくクラブ」
- 13日 Amazon Future Engineer
- 13日 東新井児童クラブ新入生オリエンテーション
- 14日 つくば子ども支援ネットフードパントリーボランティア
- 15日 主任会
- 17日 国際事業 MTG
- 19日 幼保オリーブ卒園式
- 20日 中高生デイキャンプクラブ「ユースクラブ」

- 21日 小学生デイキャンプクラブ「つくわいクラブ」
- 21日 筑波大学生食糧支援ボランティア
- 23日 職員礼拝/職員会
- 23日 幼保園一日入園
- 25日 スプリングスクール開始
- 27日 障がい児者自立支援「たんぼぼクラブ」
- 28日 YMCA プロムパーティー

4月の予定

- 2日 北関東ミーティング
- 3日 オリーブ保育園入園式
- 5日 オリーブ保育園慣らし保育開始
- 5日 スプリングスクール終了
- 8日 幼保園入園式
- 9日 幼保園慣らし保育開始
- 10日 拡大主任会
- 17日 障がい児者自立支援「たんぼぼクラブ」
- 18日 高学年デイキャンプクラブ「トムソーヤ」
(連絡主事 大澤)



【編集後記】

久しぶりに例会に顔を出してくださった宮田さんの姿をみて、18年前のことを思い出しました。

2003年、茨城YMCAに三代目の主事として宮田さんが赴任されてこれ来ました。それまでは、こぢんまりとしたアットホームな良さはありませんでしたが、財政的にも東京YMCAからの援助を受け続け、まだ立ち遅れていない茨城YMCAでした。



宮田さんは、茨城YMCAを大きくして立ち遅れさせるべく、精力的な取り組みをはじめました。ただ、自分も含めた当時の大学生リーダーたちは、これまで通りこぢんまりとしたアットホームな場所のままでいいじゃないか」「なにを変える必要があるんだ」などとよく反発していました。心地よい場所を維持することは大切ですが、いつまでも補給を受けているのは持続可能な経営にならないことも事実だったのです。

それから18年経ちました。宮田さんは、アットホームさと、事業のスケールを両立させた茨城YMCAをつくりあげました。若いスタッフが多く、卒業してそのままスタッフとして就職する元ボランティアリーダーが何人も出たのは、宮田さんが継承し、作り上げた場が、心地よいものであったことに他ならないからでしょう。18年前のリーダーたちは、ここまで大きく茨城YMCAが発展することを誰ひとり想像できなかったはずです。



宮田さんの茨城YMCAでのお働きも、もう第四コーナーを回ったところでしょうか。新しい土地を取得し、次の下ごしらえにもまだまだ意欲満々です。

(書記 村田)

サイクリングイベントのサポートライダーを依頼されることが時々あります。3月14日(日)には、「水戸八景グルメライド」に引率ライダーとして参加しました。100km弱のコースをゆっくり景色を楽しみながら、そしてその土地ならではの美味しい「差し入れ」を頂きながら約8時間かけて走りました。



しかし参加者にとっては「楽しい1日」ですが、引率ライダーにとってはその日までに、それなりの準備作業があるのです。まず送られてきたルートデータを見ながらGoogleストリートビューで予習をします。そして他の引率ライダーたちと一緒に事前走行(試走)に出かけます。実際に走ってみると工事中だったり日常的な渋滞箇所だったり目印の建物がなくなって更地になっていたり・・・。試走ではミスコースすることもよくあるので、走行距離は延びます。そんなふうに行きつ戻りつしながらイベント当日のルートを決めてゆきます。さらに私の場合はルートを完全に頭に叩き込むためもう一回、決定したルートを一人で走ってみます。それと、送られてきた参加メンバーの名前を暗記します(当日朝のグループ顔合わせのときに参加者のウェアの色と覚えた名前を紐づけすれば長い道中においてお名前呼びかけることができます)。

そうして当日は、10人ほどのグループの先頭ライダーとして颯爽と(いわば参加者たちをしたがえ引き連れて)走ることになるのです。さらにゴール後に参加者の皆さんからかけていただく言葉・・・う～ん、疲れが一気に吹っ飛ぶ瞬間です。そこでいつも「これだよなあ」と思い出すのは、マタイによる福音書20章26～28節「偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、皆の僕になりなさい」という言葉なのでした。

(会長 熊谷)